貫井の風

令和３年度　９月号
ＮＯ．５
練馬区立貫井中学校　学校だより

「甲子園への遺言」（高畠　導宏）

校長　桐野　和之

今号は、ある人物の紹介を通じて意志の強さについて話題にしたいと思います。「甲子園への遺言」という本に高畠導宏さんという元プロ野球の打撃コーチについて書かれている。私は野球を見るのは大変好きです。ただ、「甲子園への遺言」という本を読むまでは、高畠導宏というプロの打撃コーチの名前や詳しいことは知りませんでした。高畠さんは、一九四四年岡山県に生まれ、岡山の怪物バッターとして知られました。社会人野球を経て中央大学へ、そして一九六七年に南海ホークスに入団しました。

しかし、ケガをしてしまい、現役生活はたったの五年間。以後は打撃コーチとして三〇年間活躍されました。７つの球団で三〇人のタイトルホルダーを育て上げたそうです。この中には、元中日ドラゴンズの落合監督、元ソフトバンクの小久保選手、元オリックスの田口選手、元大リーガーのイチロー選手がいます。五〇代になり、コーチをしながら五年間かけて、高校の社会科の先生の資格を取り、五九歳になる年に高校の先生として再出発しています。この時の夢が、高校生の子どもたちを甲子園へというものでした。

しかし、プロを経験した者は、二年間は指導者になれないというルールから、実際には野球部の監督、コーチをすることはできませんでした。教師になり一年が過ぎようとした時、高畠さんは病に倒れます。膵臓ガンという病で、余命６ヶ月の診断が下されます。たった一年の教師生活の後、病気の闘いが始まりますが、三ヶ月あまりで最後を迎えます。その時に息子さんはまだ中学生でした。高畠さんの略歴はざっとこのようなものですが、本を読んでみて、この方の強い意志、信念が、周囲の者を惹きつける、ともに成長するというすごさを感じました。高畠さんは高校生に次のような話をしています。

「私は、プロ野球の世界で、３５年間も暮らしてきました。最初の五年間は選手として、そして後の三〇年間はコーチとして。そこでたくさんの選手に出会い、ともに戦い、一緒に汗や涙を流してきました。その中で、伸びる選手には共通するものがあることに気がつきました。そして、それは、プロ野球の選手に限らず、一般の人も同じだということがわかったのです」こうして、高畠さんは一流になっていった選手たちの話を具体的にしていったのです。そして、プロ野球で、さらに人生そのもので大切な伸びる人の共通点を七つあげました。

①素直であること
②好奇心旺盛であること
③忍耐力があり、あきらめないこと
④準備を怠らないこと
⑤几帳面であること
⑥気配りができること
⑦夢をもち、目標を高く設定することができること

高畠さんはこんな言葉も残しています。「才能とは逃げ出さないこと」。

皆さんにも７つの共通点を意識して、逃げ出さずに強い意志で夢を持ち続けてほしいと思います。

東京２０２０オリンピックの記憶

東京オリンピックが終わってずいぶんと日にちが経ちました。連日の熱戦、そして日本の代表選手の活躍。さらには、本校の平成２０年度の卒業生が柔道１００kg級にパキスタン代表として出場するなど、記憶はまだまだ新しいものとして脳裏に残っています。

オリンピックの熱戦が繰り広げられていた頃の新聞記事を集め、さまざまな角度からオリンピックを振り替えってみました。

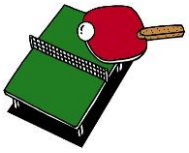
①朝日新聞　天声人語　２０２１、７、２７

運動部の男子学生から広がったとされる「そうっスね」「マジっスか」といった言葉遣い。

社会言語学者の中村　桃子さんは「ス体」と命名した。親しみと丁寧さを同時に伝えられる語法として浸透していったという（『新敬語「マジヤバイっす」』）▼五輪スケートボードの中継で解説者がその「ス体」を盛んに使っていた。「鬼やばいっスね」「よくやり切ったっスよ」。

実況アナウンサーの折り目正しい話し方と比べ、軽快さが際立った▼手すりのようなレールの上を滑る精緻な技が決まると、「『ビッタビタ』はめてましたね」。注目度の低かった選手が高得点をたたき出すと、「練習でもひとりだけ『ゴン攻め』してて」。独特の言い回しで、素人にも分かりやすく勘どころを教えてくれた▼スケボーは今大会で初めて五輪の種目となった。解説を担当した瀬尻　稜さん（２４）は国内外で活躍してきた第一人者。肩ひじ張らない普段着の語り口は、路上から始まった競技の自由さゆえだろうか▼これまでも五輪は、アスリートたちの彩り豊かな言葉を世に残してきた。「いままで生きてた中で一番幸せ」「自分で自分をほめたい」「こけちゃいました」。それぞれに万感の表情が瞬時に蘇る。コロナ下の今回は、そこにテレビ解説も加わった▼後世の専門家が「ス体」の盛衰を研究する際、２０２１年スケボー解説はどう刻まれるか。それにしても瀬尻さんの語り、競技の流れにビッタビタはまってました。大役マジお疲れさまっス。

②読売新聞　編集手帳　２０２１、７、２８



前回の東京五輪のあとに元記者ら手練れの書き手が編んだ、古い記録集を読んだ。少年少女向けで道程や熱戦のさまが克明につづってある。◆全５冊のうち、惹かれたのが裏方さんの奮闘を記した巻だ。プールの水温調節に苦心する係員、国歌にぴったり合わせ、旗を掲揚する自衛隊員、ゴミと清掃係の終わりなき格闘・・・。他にも場内整理や電話交換、用具係等、丸一冊を費やして、その献身を次世代に伝えんとした編者、執筆者の志に打たれる。◆この度の大会も同じだろう。炎天下での誘導とか、念入りな消毒作業とか。最高の舞台を整えようと、汗をかきかきもくもくと励む人たちがいる。◆「チャレンジさせてもらえて感謝している」「たくさんの人のおかげで閉催までたどり着いた」。闘い終えた競技者が謝意を語る姿は見慣れた風景ではある。けれど、困難な毎日のもと、採点を遂行するのがどれほど大変か。絞り出された言葉の端端に特別な思いがにじんでいる。◆〈世界に誇ってよいものをたくさん発見した〉。先の本の序文にそんな一節があった。選手とともに新たな物語を紡ぐであろう、さまざまな顔を夢想する。

「今、卒業生は」

令和２年度卒業生　岡部　茉奈

私は今年の春、第一志望校へ入学した。ずっと憧れていた高校だったこともあり、とても嬉しかったことを覚えている。実は、模擬試験はＢ判定以上が出たことがなかった。それに加え、一般入試の倍率は例年二倍近く。他の高校に変えようか悩み続け、変えないと決めたのは十月頃だった。私は高校で英語を中心に勉強したかったことや、綺麗な校舎に魅了されて今の高校を選んだ。他にも七校程の高校へ行き、どの高校が自分の学力を伸ばし、充実した日々を送れるか考えた。生徒から直接話を聞けず雰囲気が分かり辛い分、思ったことや感じたことをメモに書き、まとめていた。将来の夢がなかった私にとって、高校の先にある大学や夢の為に選ぶことは難しく、本当にこの進路で良いのかはとても不安だった。だからこそ、親や先生などに聞き、私に合っている高校を決めることができた。

高校では、部活動と勉強に力を入れている。部活動は始める時間、その日に行うことなど一からすべて生徒が考え決定する。毎日のように長い時間活動することは大変だが、中学校とは異なることができ楽しさも大きい。勉強はより複雑に、難しくなることに加え、一回の授業で六ページ以上進むことも多く、予習が必須となる。もちろん課題も各教科で出されるので、通学時間や休憩時間をいかに上手く使うかで成績も決まってくる。辛いことも多いが、友人達と切磋琢磨しながら日々楽しく過ごしている。

今年の受験には、私達とは違う苦労もたくさんあると思う。不安に思う人も多いかもしれないが、一年後の春には笑って高校へ入学しているはずだ。他の誰よりも自分を信じ、悔いのないように過ごしてほしい。あまり無理はせず、たまには自分をほめることも大切だ。それぞれが希望の進路へと進めることを心から祈っている。

令和２年度卒業生　大竹　埜乃子

私は今、都立総合芸術高校（以下総芸）という学校に通っています。総芸は都立で唯一の芸術科の専門学校で、美術科・音楽科・舞台表現科の三つの学科があります。更に合計十一の専攻に分かれていて、高校から専門的に芸術分野を学びたい生徒が集まり、一人一人が三年間かけて、それぞれの専攻の技術を習得していきます。

私は美術科の油画専攻で主に油絵を学んでいます。専攻の授業は週三回、一年のうちは映像やデザイン、彫刻など、他専攻の課題に取り組む授業もあります。実技が中心とはいえ、学科も疎かにするわけにはいきません。課題量が増え、自分で計画や目標を立てて取り組まなければすぐ追いつかなくなってしまうので、中学の頃に比べると比べ物にならないくらい忙しくなり、入学してしばらくは疲れきってしまう日が続きました。

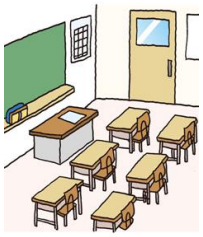
でも、最近はそんな生活にも慣れ、毎日が本当に楽しくて仕方ないです。共通の話題で盛り上がれるだけでなく、制作に悩んだらアドバイスし合える友人達と出会え、他の科や専攻で学んでいる仲間や先輩達の作品に間近で触れることができるのは、総芸ならではの素晴らしい環境だと改めて実感しました。また、生徒自身が自分の作品を発表する場が沢山設けられているのも、とても魅力的です。入学してから毎日新しい刺激が絶えず、今までとはまるで違う生活です。

私は中一の時にこの学校の文化祭を訪れ、第一志望校としてずっと目指していました。しかし、中三になり改めて進路を決めるとなると、単に他の事よりも絵が好きで得意だからと専門性の高い学校に決めてしまうことに漠然とした不安を感じて、他の学校を見

学した事もありました。でも、私にとって総芸以上の学校には出会えず、やっぱり総芸に行きたいという強い決心に繋がりました。そして今、かけがえのない時間をこの学校で過ごしています。

中三の皆さんはこれから進路選択の時期に入り、沢山悩む事があると思います。私が選んだのは美術系の高校でしたが、勉強でもスポーツでも、自分で足を運んでここに行きたいと思った学校は、きっと応えてくれると思います。自分の選択に自信を持って頑張ってください！

新型コロナウィルス感染予防の徹底を！！



現在、新たな変異株（デルタ株）により感染が拡大、増加しています。特に感染力の強い変異株の拡大により、屋外飲食のような３密ではない状況でもクラスターが発生する事案等も確認されています。そして、皆さんもご存じのように東京都内の感染者数は７月初旬頃と比較すると、ものすごい勢いで増加しています。今後、一層の予防対策の徹底が必要です。あらためて以下のことを、自覚、確認、参考にしながら各自が予防対策を進めてください。

①健康観察カードによる自己の健康把握と確認
・検温を含めた毎日の健康観察
※部活動の参加には健康観察カードによる健康確認とともに、保護者の部活動参加同意書をご提出ください。
②マスクの着用（必要な時以外はマスクの正しい着用）
③手洗い、手指消毒の徹底
④エアコン使用時を含め、教室内のこまめな換気（互いに気を付け、配慮しましょう）
⑤風邪症状等、普段と体調が少しでも異なる際には自宅で休養する
⑥風邪症状等が見られる場合にはかかりつけ医等の身近な医療機関を受診する
⑦登校後に体調が悪い場合には症状がなくなるまで自宅で休養する
⑧給食時
・手指消毒の徹底　・原則会話を控える　・食事前後のマスク着用
⑨その他
歯磨きの励行
・歯磨きは、口の中の汚れを落とし、悪玉菌やウィルスの増殖を抑え、ウィルスが細胞に入り重症化することを抑えると言われています。さらに、免疫力のアップにも繋がる効果があると言われています。（日本歯科医会ＨＰより）

◎生徒の新型コロナワクチン接種に係る出欠席等の扱い
・生徒が医療機関等でワクチン接種を受ける場合は、「非常変災等生徒または保護者の責任に帰すことのできにない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくても良いと認める場合」に該当し、出席停止として記録します。（欠席の扱いにならない）
・接種後、副反応により生徒に発熱等の風邪の症状が見られるときは、学校保健安全法に基づき、出席停止の扱いとします。
〇授業、学校行事等
・対面、密を避ける等の工夫をした取組が多くなります。また、校外での学校行事等は中止、または延期の措置を取らざるを得ない事態が出ます。学校からのお知らせ、学校連絡メール等に着目してください。